

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 2階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成26年10月17日	評価結果市町村受理日	平成26年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kairokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvsvcoCd=0170100861-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvsvcoCd=0170100861-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年10月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設後12年目を迎え、中心部および地下鉄駅から近く、交通の便が良い場所にあります。5階建てビル内に医療クリニックと老人ホームが併設しているため、連携して利用者の健康管理や合同行事などホーム運営に相乗効果をあげ、特に多数の看護師の在職と医療機関の存在が利用者と家族に多大な安心感を与えています。毎月必ず行っているレクリエーション(抹茶会・お食事会・ダンス・音楽療法・紅茶会)の他に、外部の方の協力により9月は京都大学落語研究会の「秋の落語会」で「粋に」、そして10月は秋のクラシックコンサートで「生演奏」と「ホテルメイドのケーキ」で「おしゃれに」と趣向を凝らし、どのようなレクリエーションを行えば利用者様に喜んで頂けるか、毎回スタッフで考えています。また、変化のある充実した生活を楽しんでもらうために、ソレイユ祭り、運動会、寿司パーティー、コンサートと頻りに多彩な行事を実施し、利用者のADL(日常生活動作)の維持や地域との連携に役だっています。1階に広い多目的スペースを備え、会議や各種イベントの開催、来訪者の応接など広範囲に利用しています。

都心に近く交通の便が良い5階建てビルの2～4階にあり、同法人が運営する医療クリニック、老人ホームが同ビルに併設されていて、行事、健康管理などで相乗効果をあげている。特に医療クリニックとは24時間協力体制にあって、利用者・家族に安心感を与えている。利用者に洗濯物をたたんでもらうなど、できることは積極的に手伝ってもらい、毎日、楽しんで身体を動かすメニューを多く取り入れ、囲碁など利用者が希望するレクリエーションを実施している。1階には、合同で落語会・コンサートを開催できる広いスペースがあり、様々な目的で使用されている。入浴や散歩の際に積極的に昔の思い出等を聞くようにして会話の中から入居者の知恵や苦労に学び、改めて尊敬の念を抱く若い職員がでてくる。食事は職員が手づくりしており、メニューの要望があれば極力実現するよう努め、旬の食材が食卓に上り、職員と会話をしながら一緒に食事を楽しんでいる。避難訓練は2回とも夜間を想定して行い、訓練結果を総括して次の訓練に活かしている。毎月、非常災害や事故発生予防などテーマを決めて内部研修を行うなどスキルアップにも力を入れている。利用者は家族・職員・地域住民に見守られて安心・安全に暮らしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族になろう」を理念に管理者と職員は、その理念を共有し地域の中で自立とゆとり、受け入れの実施をしている	グループホームがひとつの「家族」になって、「地域に受け入れられる」ことを運営理念とし、そのために「利用者を主役にした温もり、笑顔で心のこもった介護ケア」に努めている。運営理念・介護ケア理念を見やすい場所に掲げて、職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物を通じて近所の人たちとコミュニケーションをとっている	地域の夏祭りや盆踊りに参加し、散歩の時の挨拶、喫茶店や商店の利用で地域との繋がりを深めている。地元の小学生から手紙もらうなどの交流があり、たくさんの地元ボランティアの協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のホームページにて情報を発信、相談などは窓口、ホームページ上から受け付けており、地域貢献に活かされている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設代表、家族、町内会長などが出席し開催。意見をサービスに反映させている。	2ヶ月に一度、包括支援センター・町内会・地域住民・家族などが出席して、活動状況、ヒヤリハット・身体拘束事例などを報告して、意見、要望を聞いて運営に反映させている。また、家族から要望を聞き取って、改善に努めてサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を実施し、情報提供に努めている	事業所の活動状況を運営推進会議を通じて伝え、法規の解釈など不明の点を電話で聞いている。時には、要望を積極的に伝えて改善を求めることもある。生活保護の更新などで定期的に区役所を訪れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回は身体拘束会議を開催して、身体拘束について見直し、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束会議では現状で拘束の必要があるか。より限定的な方法を採れないかを非拘束の原則と利用者の安全確保を考慮しながら決定している。事業所前が石山通で交通量が多いことや、家族の要望もあり入居者の安全確保からユニット入口を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での研修会で職員は虐待について学び、理解をして虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学び、理解して活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の先には、十分な説明を行い、疑問点に答え、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に意見を聞く為の、箱が設置されており、それらを基に運営に反映するよう努めている	利用者とは入浴や散歩の際に、家族とは来訪の機会にコミュニケーションをとって、意見や要望を聞きとるように努めている。月に1回送付する「ソレイユ通信」に利用者の近況報告を手書きして、特に面会が難しい家族に情報を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で行われる会議等で常に意見や提案を聞き反映させている。	管理者は朝のミーティングや会議、個人面談などの機会を利用して、職員から意見や提案を聞き、運営の改善やケアの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力・勤務状況の把握、有給及び労働時間が超過した場合には残業代の支給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会に恵まれ、職員は徐々にレベルアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は施設外の研修などに参加して、ケアの質の向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を基に、本人との会話を多く持ちながら、気兼ねなく本音話せるような雰囲気を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気兼ねなく本音話せるように、ゆったりした対応で親身に話を聴く雰囲気を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人らしさを大切にストレス無く過ごしていただけるよう、コミュニケーションを図り、入居者様・ご家族と一緒にひとつひとつ相談し流動的に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフがなんでもやってしまうことが無いように、本人の出来ることを見つけてお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なんでも家族に相談するのを忘れずに、家族と一緒に検討するように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、本人の入居前からあった交流の場や、同窓会等にも参加して頂き、希望が叶うように、方法を検討している。	月に1から2回継続的に理・美容師に事業所に来てもらうなど新たな馴染みの関係を構築できるように配慮している。レクリエーションで唱歌を歌ってもらい、入浴や散歩の時には昔のことを話してもらって馴染みの感覚がよみがえるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係が穏やかである為に、トラブルを未然に防ぐようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の状況や退居後も相談し合い、入居者様・ご家族様に納得して頂ける様心掛け、退居後も相談していただけるような良い関係になれるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好むこと、喜ぶことを見つけるため、コミュニケーションをとる時間を大切にしている。	丁寧なコミュニケーションによって利用者の希望や意向を把握するように努め、基本情報シートにまとめて情報を職員間で共有している。囲碁が趣味同士の利用者が楽しく碁盤に向かい合う様子が見うけられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からは勿論、家族からも積極的に情報を知るためにコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日偏り無く全員の様子を知るためコミュニケーションをとる時間を大切にしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との会話を大切に、小さ情報も逃さない。スタッフ間での情報交換を強化している	入居前の情報をケアマネなどから入手して、今までの生活歴を考慮し、本人・家族・医師の要望と意見をもとに職員が話し合っって暫定的なケアプランを作成。その後の観察や経過を踏まえて定期的に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報漏れなく共有するために、申し送りノートやケース記録を再確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応方法を全スタッフで話し合い、実践、評価を繰り返しながら適切な対応を探求している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ダンボールの回収を始め、当事業所のイベントに町内会長や近隣の小学生などからも参加していただいている。また散歩の際など、近隣の方と交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先している。	本人や家族の要望を最優先してかかりつけ医を選んでもらう。24時間協力体制にある内科クリニックを併設し、看護師が常駐しており入居者に安心を与えている。かかりつけ医への通院は職員が同行して、利用者の情報を丁寧に病院に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と連携をとり、相談し、報告をして、適切な指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師や、入院先の看護師に情報提供し、安心して治療し、早期に退院できるように協力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師の判断に基づき、当事業所と入居者様、ご家族様と話し合いを持ち、方針について支援できるように取り組んでいる	「重度化時の指針」をもとに契約時に事業所の出来る範囲などを説明して納得を得ている。重度化した場合は出来るだけ早くに医師・事業所と家族間で話し合いの機会を持って、今後の方針において家族が最良の選択が出来るように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり、研修会やミーティングなど日ごろから実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、毎年防火訓練や避難訓練を行っている。訓練の結果を会議で検討して問題点を洗い出し、業者を招いて説明を受けながら改善に繋げている。	消防署が協力して、年2回とも夜間を想定した防火・避難訓練を行っている。会議を開いて訓練の内容・結果を総括し、今後の課題を話し合っ「実施記録」にまとめている。非常電源や備蓄食料・水を用意して災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重してプライバシーに配慮した声掛けや対応をしている。	利用者の嫌がる話題や話を事前にチェックして職員が共有し避けるようにしたり、『〇〇さん』と呼ぶことを心がける。個人情報記載の書類は放置しないよう気を付けて、鍵付のキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく、思いや希望を表現できるように温かくゆったりした姿勢で見守っている。コミュニケーションが難しい方に対しても本人が選択できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに合わせ、押し付けることなく出来るだけ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に起床時は身だしなみに気をつけている。おしゃれのアドバイスも時々行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや意見を聞きながら、メニューを作成したり、一緒に調理や片付け、準備を行っている。	手作りの料理を職員と一緒に食卓を囲んで会話をしながら食べ、準備や後片付けを行っている。食事に専念し会話を楽しめるようテレビや音楽は流さない。行事食でちらし寿司・パンケーキなどが出される。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記入して利用者様一人一人の状況に応じて管理栄養士の指導による献立作りが出来るように声掛けをしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前に利用者様一人一人の口腔内の状況に応じてケアをしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンを把握して、見守りをしたり、声掛けをしたり誘導を行うなどをしている	排泄の自立はADLと尊厳の確保のために重要だと職員全員が認識しており、水分摂取・排泄表や入居者のしぐさを見て適切な声掛けでトイレに誘導している。夜間においても極力トイレでの排泄に誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫(牛乳やヨーグルトの摂取)や体操、散歩などに取り組んでいる			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ利用者様の希望の時間帯に合わせて、楽しくゆったりと入浴をして頂ける様に配慮する。	週2回の入浴を基本として、入浴を嫌がる入居者には、時間をずらしての声掛けやとにかく浴室まで誘導するなどの工夫をしている。歌を歌い、むかしの思い出話をしてもらうなど楽しい入浴になるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活習慣を把握して、状況に応じて安心して休息したり、よく寝れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の薬の管理を行い、薬の目的や用法、用量についてはリストづくり理解している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意としている事を活かして、役割を決めて、お手伝いとして気分転換をしていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週三回以上の外出が出来るように計画的に予定を立てている。また、事前に連絡を頂き、医師に確認の上(体調など)外出は可能。家族と連絡を密に取り合い支援している。	買い物や公園など週3回外出が出来るように計画的に予定を立てて取り組み、その際には健康チェックもする。初詣や紅葉見物など車を利用しての外出も季節毎に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にて管理し、状況に応じてその都度必要な金額を出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度、ソレイユ通信を発送し、近況報告をしている。電話の希望ある時は、出来る限りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、毎日掃除を行い清潔を保っている。強い日差しがあるときには、カーテンなどで日陰を作る等の配慮を行っている。居心地が良い空間作りを心掛けている	居間は明るさ・温湿度・日差し・清潔さに配慮されて居心地の良い空間になっている。特に冬場は濡れタオルを干して湿度を保持している。カビの原因となるため加湿器は使用していない。利用者も協力して作った飾り物や大きな日めくりカレンダーが季節感あふれた居間になっている。	共用空間は居心地良く過ごせるよう工夫されているが、事業所開設から13年経過して施設の老朽化も見られるので、利用者の安全確保、居心地の良い環境作りに、一層努められるよう期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの配置は入居者様同士の相性などを配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安全を確保しつつ、本人の希望される配置にしている。	自宅で使い慣れた家具やぬいぐるみ、日用品を持ち込んでいる。家族の写真や自分で作った作品が飾られて居心地が良い。ベッドの配置を家族と職員が相談して決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることや出来る可能性がある事を維持、向上出来るよう努めている。		